

気象変動に負けないコシヒカリを作ろう!! ～「R7 JAなのはな米品質向上運動」実施中～

○コシヒカリの生育は、草丈・葉色・茎数は平年並みとなっています。今後も気温が高いことが予想されるため、**幼穂形成期（幼穂長2mm）は7月9日頃**と見込まれます。

○今後も生育状況を的確に把握し、適切な穂肥施用で過剰着粒を防ぐとともに、水管理や基本防除を徹底し、気象変動に負けない良質米の生産につなげましょう。

1. コシヒカリの穂肥

(1) 肥効調節型基肥栽培の場合

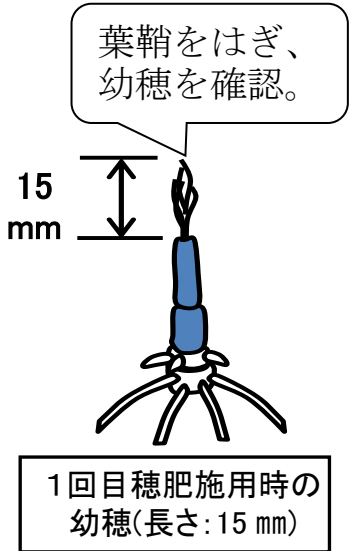
原則追肥は不要です。ただし、出穂の7～10日前（7/21～7/24 頃）に葉色を確認し、葉色が4.0（砂壤土は4.2）以下の場合は、登熟期間中の稲体の活力維持のため、出穂の3～7日前までに追肥3号を5～7kg/10a 施用しましょう。

(2) 分施栽培の場合

- 生育状況を確認し、生育に応じた穂肥を施用しましょう。
- ・1回目穂肥：倒伏や過剰着粒を防ぐため、生育量に応じて慎重に施用
 - ・2回目穂肥：登熟期の稲体活力維持のため、確実に施用

【分施栽培の穂肥の目安：5/12 田植、追肥3号を使用する場合】

1 回目穂肥施用時の生育量と施用量 幼穂長15mm：幼穂形成期（幼穂長2mm）の8日後					2 回目穂肥	
生育量	草丈	葉色	施用時期	10a 当り 施用量	施用時期	10a 当り 施用量
適 正	82cm未満	3.6程度	7月17日頃 幼穂長15mm	10kg	1回目穂肥の 7日後	10～13kg
やや過剰	82～87cm	3.8程度	7月19日頃 幼穂長20mm	7kg程度		
過 剰	87cm以上	4.0以上	施用しない		7月23日頃 幼穂長10cm	10kg程度



2. 水管理

今後、かなり気温の高い状態が続く見込みとなっています。干し過ぎの水管理にならないようにしましょう。

(1) 幼穂形成期～出穂期は飽水管理 ～飽水管理で根の活力を維持！～
足跡に水が残る程度になったら入水し、常に土が潤った状態を保ちましょう。

(2) 出穂後20日間は湛水管理 ～湛水管理で登熟を向上！～

出穂期から20日間は湛水状態（田面が出ない程度）を保ち、稲体の活力を維持しましょう。（高温時は、こまめな水の入れ替えを！）



3. 病虫害防除

今年は例年以上に斑点米カメムシ類が多発しています。基本防除を徹底しましょう。

- ・田植日や生育等により出穂期が異なるため、防除前には必ず出穂状況を確認しましょう。
- ・全品種2回の基本防除を徹底し、斑点米の発生を防ぎましょう。
- ・防除の際は農薬の使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう。

【防除時期の目安】 ※田植時期は、てんたかく：5/3 頃、コシヒカリ：5/12 頃で推定

体系	防除時期	てんたかく (7/16 出穂)	コシヒカリ (7/31 出穂)	薬剤名	10a当り散布量
粉剤	穂 揃 期 (穂が9割程度出ていたら)	7/19頃	8/5頃	ラブサイドキラップ粉剤 DL	3～4kg (収穫 14 日前まで)
	傾 穂 期 (穂揃期の7日後)	7/26頃	8/12頃	トレボンスター粉剤 DL	3～4kg (収穫7日前まで)
粒剤	出穂10日前頃	7/6頃	7/21頃	フジワンラップ粒剤	4kg (収穫 30 日前まで)

農作業の際は、こまめな水分・塩分補給や適切な休憩など、熱中症対策を徹底しましょう